

明石工業高等専門学校	開講年度	平成30年度(2018年度)	授業科目	応用物理
科目基礎情報				
科目番号	0083	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	機械工学科	対象学年	4	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	田口俊弘, 井上雅彦:「エッセンシャル電磁気学 エネルギーで理解する」、森北出版			
担当教員	小笠原 弘道			

### 到達目標

- (1)電磁場の概念とそれに関する基本法則を理解し、それらを式を用いて取り扱うことができる。  
 (2)物質の電磁場に対する振る舞い(電磁物性)について、初步的な事柄を理解する。  
 (3)電磁気学を応用し、回路素子に関する基本的な計算ができる。

### ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	電磁場の概念とそれに関する基本法則を十分に理解し、それらを式を用いて的確に取り扱うことができる。	電磁場の概念とそれに関する基本法則を理解し、それらを式を用いて取り扱うことができる。	電磁場の概念とそれに関する基本法則を理解したり、それらを式を用いて取り扱ったりすることができない。
評価項目2	物質の電磁場に対する振る舞い(電磁物性)について、初步的な事柄を詳細に説明できる。	物質の電磁場に対する振る舞い(電磁物性)について、初步的な事柄を説明できる。	物質の電磁場に対する振る舞い(電磁物性)について、初步的な事柄を説明できない。
評価項目3	回路素子に関する基本的な計算について、電磁気学の法則とのつながりを含めて説明できる。	回路素子に関する基本的な計算ができる。	回路素子に関する基本的な計算ができない。

### 学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (H)

### 教育方法等

概要	本科目では、電磁気学の初步について、必要な数学的手法(ベクトル算や微積分)による取り扱いを含めて講義する。これは、自然現象としての電気や磁気の学習であるとともに、後期以降の科目で取り扱われる電気電子工学の学習にもつながるものである。
授業の進め方・方法	授業は講義形式で行い、その中で演習課題や小テストも課す。
注意点	一つ一つの知識(例、問題)を暗記的に(個別に)覚えようとするのではなく、それらをまとめた法則そのものを理解すること(法則を具体的な状況に適用できるようになることを含む)を意識して学習すること。また、種々の法則の相互の関係にも注意して体系を理解するように努めること。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課

### 授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1週	電荷と電場	電荷に働く力の場である電場について習得する。
	2週	電荷と電場	電荷に働く力の場である電場について習得する。
	3週	電位	仕事と電位について習得する。
	4週	電位	仕事と電位について習得する。
	5週	電気に関するいくつかの話題	電荷や電場・電位についてこれまでに学習したことに基づき、電気に関するいくつかの事項(物質の電気的性質を含む)を習得する。
	6週	電気に関するいくつかの話題	電荷や電場・電位についてこれまでに学習したことに基づき、電気に関するいくつかの事項(物質の電気的性質を含む)を習得する。
	7週	電気に関するいくつかの話題	電荷や電場・電位についてこれまでに学習したことに基づき、電気に関するいくつかの事項(物質の電気的性質を含む)を習得する。
	8週	中間試験	
2ndQ	9週	磁極と磁場および磁性	磁極に働く力の場である磁場と磁気モーメントおよび物質の磁気的性質について習得する。
	10週	電流	電流と起電力およびオームの法則について習得する。
	11週	電流と磁場	電流が作る磁場について習得する。
	12週	電流と磁場	電流が作る磁場について習得する。
	13週	電磁誘導	電磁誘導と関連する事項について習得する。
	14週	電磁誘導	電磁誘導と関連する事項について習得する。
	15週	ローレンツ力	電磁場中で運動する電荷に働くローレンツ力と電流に働く磁気力について習得する。
	16週	期末試験	

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	物理	導体と不導体の違いについて、自由電子と関連させて説明できる。	3	
			電場・電位について説明できる。	3	
			クーロンの法則が説明できる。	3	
			クーロンの法則から、点電荷の間にはたらく静電気力を求めることができる。	3	
			オームの法則から、電圧、電流、抵抗に関する計算ができる。	3	

			抵抗を直列接続、及び並列接続したときの合成抵抗の値を求める ことができる。	3	
			ジュール熱や電力を求めることができる。	3	

### 評価割合

	試験	演習課題・小テスト	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	60	40	100
分野横断的能力	0	0	0